

みんなで
考えよう
人権・同和問題
No. 215

マララさんの勇氣に学ぶ

このコーナーでは、隔月のシリーズで掲載
しています。これを手がかりに、家庭で人権・
同和問題について話し合ってみましょう。

子どもたちが教育を受けることは、当然の『権利』です。しかし、世界には、女の子が教育を受けることを『罪』だと考え、それを暴力で訴える人もいます。2012年10月、パキスタンに住む15歳の少女が下校中に武装勢力から銃撃されました。女性への教育の必要性を訴えていたマララ・ユスフザイさんに対する凶行です。奇跡的に回復した彼女は、またいつ襲われるかもしれないという恐怖を抱きながらも、精力的に活動を継続。

その勇氣ある行動は、世界の
人々から称賛を浴びています。
マララさんの『勇氣』は、
いったいどこから来るので
しょうか。それは、間違っ
ていることを「おかしい」と判
断できる知識と、「この状況
を変えたい」と願う強い意志
から生まれているのかもしれ
ません。私たちは「おかしい」
と声を上げるとき、何が問
違っているのかを十分に認識
していなければ自信を持って
行動することができません。
彼女の勇氣ある行動も、まさ

しく『教育』を受けたことによつてもたらされたものだと考えることができます。
世の中には、同和問題をはじめとするさまざまな人権問題があります。その解決のためには、現状をきちんと知ることが重要であり、まずは学ぼうとする意識が必要で
す。昨年、最年少でノーベル平和賞を受賞したマララさんは、授賞演説で「すべての人々に平等、正義、平和をもたらしましょう。政治家や世界の指導者だけでなく、私たち皆が貢献しなくてはなりません。それが私たちの務めなのです。待っていてはいけません」と語りました。少女の言葉一つ一つに勇氣をもらいながら、私たちが『学ぶ』ことから始めたいものです。

市制60周年記念 家読推進講演会

2月14日、市民図書館で市制60周年を記念して家読推進講演会が開催されました。講演に先立ち、家読を推進するために募集した『うちどく川柳コンテスト』の表彰式が行われ、応募総数1783句の中から6句の作品が入賞しました。その後、埼玉県三郷市教育委員

会学校教育部長の星 健次郎さんが、『三郷市における家読の推進と広がりについて』と題して講演。三郷市の取り組みや、学校で実践している集団で音読する『群読』、読んで伝える読書表現活動など、さまざまな活動を紹介しながら、読書の大切さを訴えていました。



↑「読書活動は、人と人との絆を深めることができる」と話す星さん

郷土の文化財

史跡大川内鍋島窯跡⑥

現代の大川内山

明治初期、廃藩置県によって大川内山の藩窯が廃止されると、陶工たちは、慣れない民間市場での流通・販売に苦勞しながらも、自営することで製陶を続けました。その結果、現代に至るまで、鍋島焼の技法は絶えることなく継承されています。

大川内山では、鍋島焼の伝統が受け継がれただけでなく、江戸時代に鍋島焼を生産していた窯跡や御細工場など、藩窯の経営

に関する遺跡が残されている、平成15年には、国史跡に指定されました。

近年では、このような歴史的側面だけでなく、大川内山の三方を囲む急しゅんな山々の、まるで山水画を思わせる趣も、観光客を



↑往時の町並みが今も残る大川内山の窯元群

楽しませてくれます。また、時代とともに少しずつ変化を遂げてきた町並みには、近世以降の歴史と伝統が息づき、雄大な自然に抱かれて、今も落ち着きのある雰囲気漂わせています。
このように、大川内山は歴史・景観・町並みの3要素がそろった独特な地域として、全国的にもその名を知られ、市外から多くの観光客が訪れています。

● 問合先 生涯学習課
(☎) 33186